

AI、機械学習と従来型研究開発の現実的な組み合わせ方法  
～データベースの構築と機械学習との連携・運用～LIVE配信  
アーカイブ配信  
7日間視聴可能

★日時：2026年3月13日（金）10:00～16:00

★受講料：1名 49,500円（消費税込）

★会場：WEB受講のみ（Zoomシステム）

同一セミナー同一企業同時複数人数申込みの場合 1名44,000円

※LIVE配信／アーカイブ配信（7日間視聴可能）

★受講資料：PDF資料（受講料に含む）

R&D部門のデータ共有・利活用の実情、属人的データ共有状況が生み出される原因、属人的データ共有状況が引き起こす問題、報告書の共有で期待して良いこと・良くないこと、機械学習などのMIの特性と注意すべき点、R&D部門においてデータベースと機械学習を連携させていく場合の注意点、データベース導入時・運用時に陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策について、詳しく解説する特別セミナー！！

【講師の言葉】 IoTやAIの普及により、製造工程以降のデータ利活用は急激に進展しています。一方、公的研究機関であれ、民間企業であれ、R&D部門におけるデータの取り扱いには属人的なままであり、研究の信頼性が阻害されたり、効果的なデータの利活用がほとんど進んでいないのが実態です。R&D部門は技術の源泉であり、データを精緻に管理して効果的に利活用する、つまりデータ分析・AI化を行うことは、今後の競争力にとって不可欠です。

本講演では、まず、R&D部門のデータ共有、利活用の実情をお話しさせていただき、データ共有、利活用が進まない状況がなぜ発生してしまうのか？そのような状況にはどのような問題がはらんでいるのか？、AI、機械学習を実験研究にどのように組み入れていくべきか？に関して、説明をさせていただきます。最後に、データベースと機械学習の連携、運用を維持、拡張させていくときの課題に関して具体例をもとに、陥りがちな落とし穴とそれらの回避方法に関して解説させていただきます。

【受講形式】 WEB受講のみ ※本セミナーは、Zoomシステムを利用したオンライン配信となります。

【予備知識】 特に必要ありません。R&D部門の自社での実情を知っていたり、知りたいと思っていることが必要です。

【受講対象】 ・機械学習などAIツール環境は整備できたが、実運用ベースにのせるのに困っている方

・データ共有、利活用でお困りの方 ・蓄積データのデータ分析でお困りの方

・自社及び他の一般的なR&D部門のデータ共有、利用、活用状況を知りたい方

・R&D部門のデータに対して、AIを活用したい、させたいと考えられている方

・R&D部門のデータの利用、活用を推進することのメリットを具体的に知りたい方

- 【習得知識】
- 1) R&D部門のデータ共有、利活用の実情
  - 2) 属人的データ共有状況が生み出される原因
  - 3) 属人的データ共有状況が引き起こす問題
  - 4) 報告書の共有で期待して良いこと、良くないこと
  - 5) 機械学習などのMIの特性と注意すべき点
  - 6) 機械学習などのMIの研究への組み込み方法
  - 7) R&D部門におけるデータ蓄積基盤としてデータベースがなぜ必要か？
  - 8) R&D部門においてデータベースと機械学習を連携させていく場合の注意点
  - 9) データベース導入時に陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策
  - 10) データベース運用時に陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策 など

【講師】 株式会社キャトルアイ・サイエンス 代表取締役 上島 豊 先生  
博士（工学）、元 日本原子力研究開発機構

## 1. はじめに

講演者のR&D実績とデータ共有、利活用の取り組みについて

## 2. R&amp;D部門のデータ共有の実情

2.1 R&D部門のデータ蓄積の実情

2.2 属人的データ蓄積状況が生み出される原因

2.3 属人的データ蓄積状況が引き起こす問題

## 3. データ共有はどう実現し、何が期待できるか？

3.1 属人的データ蓄積状況を脱するために必要な方策

3.2 報告書の共有で期待して良いこと、良くないこと

3.3 データ共有で研究の何が改善できるのか？

## 4. データ探索、分析を意識したデータ蓄積方法とその運用

4.1 データ探索を意識したデータ蓄積方法

4.2 データ分析は、どのようにして行うのか？

4.3 データ共有、利活用状況を改善するために必要な

プロジェクトチームの作り方

4.4 プロジェクトメンバーに求められる資質

## 5. AI、機械学習を実験研究にどのように組み入れていくべきか？

5.1 機械学習などのMIの特性と注意すべき点

5.2 機械学習などのMIを研究へ組み込む方法

## 6. データベースと機械学習の連携、

運用を維持、拡張させていくときの課題と対策

6.1 R&D部門におけるデータ蓄積基盤としてデータベースがなぜ必要か？

6.2 データベースと機械学習を連携させていく場合の注意点

6.3 データ共有システム導入時に陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策

6.4 データ共有システム運用後陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策

質疑・応答

【受講者の声】 ここ数年で一番良いセミナーでした。現場で実務をやってこれた上でのノウハウがたくさん含まれており、自分自身が進めてきたデータベース基盤整備の方向性が間違っていない事が感じれて良かったです。

・まずは実験DB作成から取り組む事になりますが、その際の注意点(データセットの単純化・文字列データの排除等)が理解出来ました。その後のデータ蓄積やシステムとして構築する為には更に人間関係や組織形態も考慮し、取り組む必要があると認識出来ました。

・とてもわかりやすく、理解しやすい内容でした。実践的に紹介していただき参考になりました。

## ◆セミナーお申込要領

・弊社ホームページの申込欄又は、E-mailかFAXにてお申し込みください。

・受付後、受講票・請求書等をメールで送信します。

・開催日の8日前以内のキャンセルの場合、受講料の全額を申し受けます。

## ◆申込書：2026年3月13日：セミナー

会社名： 部署名：

住所：

TEL： FAX：

氏名：

Email：

## ◆申込先



TH企画セミナーセンター



株式会社TH企画

〒108-0014 東京都港区芝4丁目5-11 芝プラザビル5F

TEL: 03-6435-1138

FAX: 03-6435-3685

Email: [th@thplan.com](mailto:th@thplan.com)URL: <https://www.thplan.com/>

詳細、その他のセミナーは、ホームページをご覧ください。

検索

TH企画

サイト内  
キーワード検索0313  
(開催日)